令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　音楽科　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・表現活動においては、歌唱に意欲的に取り組むことができる。 ・文章表記（鑑賞ノート）については、なかなか取り組めない課題のある生徒が多い。	・歌唱活動には意欲的に取り組む姿勢はあるが、基本的な音楽的知識（楽典）を身に付けようとする姿勢はあまりない。 ・鑑賞の記録など、文章の表現に戸惑いを見せる生徒が多い。	・歌唱活動において、意欲的に取り組める生徒が増えた。 ・楽典に関しては、課題のある生徒が見られる。
学習状況	・すべての音楽活動に前向きに取り組んでいるが、楽典（音符と休符の長さの割合など）を理解するのに時間を要する。	・音楽活動に前向きに取り組むが、音楽的知識（楽典）を理解することに時間を要する。 ・歌唱技術を高めようとする生徒が増えてきている。	・響きのある声を工夫するリーダー的な生徒が雰囲気を作っている。 主体的に活動できる生徒が増えてきている。
生徒アンケートの結果より	・項目３の結果を考慮し、タブレットを活用し、パート、クラス練習を録音し、振り返り等に生かす。 ・項目６の結果を考慮し、合唱コンクールに向けて、指揮者、パートリーダー等を中心に話し合い活動を取り入れた授業を増やす。	・項目３の結果を考慮し、音楽家などの調べ学習においてタブレットの活用を授業に取り入れていく。 ・項目５の結果を考慮し、１時間の授業のめあてを明確化し、生徒に定着させるよう務める。	・項目３の結果を考慮し、タブレットを活用し、パート、クラス練習を録音し、振り返り等に生かす。 ・項目６の結果を考慮し、合唱コンクールに向けて、指揮者、パートリーダー等を中心に話し合い活動を取り入れた授業を増やす。

【授業改善の手だて】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・範唱を丁寧に行い、響きのある歌声を感得させ、それを実践する意欲を育てる。 ・楽典の知識について、合唱曲集や教科書を利用し、定期的に確認する。	・声の響きを工夫させ、より調和のとれた合唱活動ができるよう、技術的向上を目指し指導する。 ・楽典は練習のプリントをこまめに準備して取り組ませる。	・声の響き、曲想を意識して歌唱表現するような技術的な助言をしながら指導する。 ・楽典の知識について、合唱曲集や教科書を利用し、定期的に確認する。
評価方法	・実技テストにて、個々の歌唱力を評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。	・実技テストにて、個々の歌唱力を評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。	・実技テストにて個々の歌唱力を評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。